

パキスタン

<2005年の注目すべきポイント>

2005年は、Metallurgical Construction Corporation of China (MCC)社を中核に中国企業がSaindak銅鉱山、Duddar鉛亜鉛プロジェクトに本格参入している。

1. 非鉄金属一般概況

パキスタン共和国の主要鉱産物としては、クロム及び少量のボーキサイトがある。工業用鉱物として岩塩などがある。一方非鉄金属の生産としては、クロム鉱石のほか、Saindak銅鉱山が2003年から商業生産を開始した。GDPに占める鉱業部門の割合は、0.5%と小さい。また、貿易についても、綿関連製品、農・畜産関連物が輸出額の大きな割合を占め、非鉄金属鉱石関連の占める割合は小さい。今後は、銅、亜鉛鉱山等の開発の進展により幾分増加するものと見込まれている。

2. 鉱業政策の主な動き

鉱山法 (Mine Act、1923年制定)により、基本的には、石油・天然ガス及び放射性鉱物の探鉱・開発は連邦政府が所管し、それ以外の鉱物資源の探鉱・開発は州政府の所管となっている。州政府は、それぞれ鉱業法を制定し、鉱業権等の許認可、鉱山の監督権限を有している。

1995年には、鉱業促進を通じた、雇用機会

の創出、鉱物埋蔵地域の持続的発展、地域産業の活性化、技術移転、中央・州政府の歳入増、インフラ整備、地質データベースの確立等のため、国家鉱業政策 (National Mineral Policy) が策定されている。同政策においては、Mineral Investment Facilitation Authority (MIFA) や Licensing Division 及び ExplorationPromotion Division を有する Department of Mineral Development を各州に設置すること。

首相を議長とする Mineral Investment Facilitation Board (MIFB)の設置。鉱業権を Reconnaissance License、ExplorationLicense、Mineral Deposit Retention License 及び Mining Lease の4種類とすること。環境保全への取り組み等が示されている。

3. 主要鉱山物の生産・輸入・消費・輸出動向

生産量は以下のとおりとなっている。

主要鉱物生産量

| 年度 | 1999/00 | 2000/01 | 2001/02 | 2002/03 | 2003/04 |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| ボーキサイト (t) | 9,685 | 3,728 | 12,233 | 4,098 | 4,847 |
| クロマイト (t) | 25,669 | 21,683 | 34,185 | 30,657 | 28,529 |
| マンガン (t) | 130 | 1,500 | - | 1,551 | 40 |
| 石炭 (千t) | 3,164 | 3,286 | 3,512 | 3,609 | 3,300 |
| 岩塩 (千t) | 1,358 | 1,394 | 1,423 | 1,426 | 1,640 |

Source : Ministry of Petroleum and Natural Resources

4. 鉱山会社活動状況

(1) Saindak Metals Limited (SML)

同社は、パキスタン資源開発公社 (Resources Development Corporation of Pakistan) を前身とし非鉄金属及びベースメタルの探鉱、鉱山開発を手掛ける国営鉱山企業である。政府が株式100%を所有し、石油天然資

源省が所管する。従業員は1,100人に従業員を雇用し、2004~05年度の売上高は6,053万US\$、純利益は240万US\$となっている。6,500万US\$相当の銅ブリストー1万5,373t (含金量1.5t、銀量2.07t)を生産した。

同社は、2001年11月30日、Metallurgical Construction Corporation of China (MCC)社

と 2,200 万 US\$ の投資を受けて、生産能力を 30% 増強することで合意している。

また、2004 年 6 月、安泰科は、江西銅業株式有限公司が数社のパートナー企業と Saindak 銅鉱山への投資の可能性を検討していることを公表した。更に、中国連合銅業有限公司 (CUC) が中心となり、国内産銅 5 社 (江西銅業、銅陵有色金属、雲南銅業、金川有色金属、中条山有色金属) と国有貿易公司である中国五鉱有色金属株式有限公司で構成する“銅精鉱仕入同盟”がリーダーシップを取り、Saindak への投資可能調査を既に行っているとして江西銅業が同様に公表している。

(2) Pakistan Mineral Development Corporation (PMDC) 社

同社は、1974 年に設立され、従業員は、約 1,500 名、4 炭鉱 (Degari、Sor-Range、Sharigh、Lakhra) 及び 4 岩塩鉱山 (Khewra Salt Mines、Warcha、Kalabagh、Jatta / B. Khel) を操業しており、パキスタンにおける石炭生産の 13%、岩塩生産の 52% を占めている。2004~05 年度の石炭生産量は 44 万 7,143t、岩塩は 83 万 5,431t であった。2005 の売上高は 8 億 171 万ルピー、純利益は 1 億 9,203 万ルピーとなっている。PMDC は、Northern Area Gold & Base Metal プロジェクトを有して、金銀銅などの探鉱も行っている。

PMDC は、Sarhand Minerals Ltd、Lakhra Coal Development Company、Soapstone Mining Project、Orakzai 州の石炭探鉱開発プロジェクトの権益をそれぞれ、49%、50%、30%、51% 保有する。

Balochistan 州の Duddar 鉛・亜鉛鉱床については、中国 Metallurgical Construction Corporation of China (MCC) 社との間で共同探査を実施してきており、MCC 社のパキスタン法人 MCC Resources Development Company Ltd (MRDL) を通じて開発を行うことで合意している。

5. 鉱山・製錬所状況

Saindak 鉱山

同鉱山は、パキスタン北西、イラン・アフガニスタン国境付近 Balochistan 県 Cangri 地区に

位置し、Saindak Metals Limited (SML) 社が、中国 Metallurgical Construction Corporation of China (MCC) 社の協力をを受けて創業する。同鉱山は 1995 年 11 月から 1996 年 1 月 6 日にかけて試験操業を行い、1,542t のブリストア銅を生産したが金属価格低迷等の理由により商業生産には至らなかった。埋蔵鉱量は、3 鉱体の合計で 4 億 1,200 万 t (Cu 0.43%) と推定されている。

その後、2000 年 2 月に政府が同鉱山の再開計画を決定し、2001 年に MMC が 10 年間のリース権を取得し、資産を MRDL に移転し、2003 年 8 月から操業を再開している。MRDL の投資額は 2,592 万 US\$ となっている。

2004 年 9 月~2005 年 6 月の鉱石生産量は、390 万 9,553t、精鉱生産量は 5 万 9,045t、ブリストア銅 1 万 1,692t。2004 年度の純利益は 1 億 1,970 万ルピーとなった。

鉱山の粗鉱処理能力は 1 万 2,500t/日、銅製錬能力は 2 万 2,000t/年で、銅ブリストアの生産目標は 1 万 5,500t/年となっている。金は 4 万 7,170oz/年、銀は 8 万 8,050oz/年が目標とされる。2004~05 年度の銅ブリストア 9,036t、金 2 万 7,672oz、銀 5 万 5,346oz を生産した。South 鉱体の鉱山ライフは 19 年、埋蔵鉱量 7,800 万 t とされる。

Reko Dek 銅金プロジェクト

豪 Tethy Copper Company は 2 億 US\$ を投じ、Balochistan 州 Chagai 地区の Reko Dek 銅金鉱床 (埋蔵鉱量 1 億 6,700 万 t) を対象に、銅を年産 4 万 t 生産する計画を明らかにした。TCC は、1,487 万 A\$ を投じ、総延長 3,051m のボーリング調査と 6 万 384km² を対象に空中磁探を実施した。

Duddar 鉛亜鉛プロジェクト

Duddar 鉱床は PMDC らが発見し、推定埋蔵鉱量 1,431 万 t、亜鉛品位 8.6%、鉛品位 3.2% とされる。2005 年 4 月より建設を開始し、2007 年末の生産開始を目指している。生産開始後は 10 万 t/年の亜鉛精鉱 (亜鉛 65%)、3.25 万 t の鉛精鉱 (鉛 54%) の生産が可能になる。投資総額は 7,200 万 US\$。

Balochistan 政府は 100km に及ぶ道路建設に

着手した。同プロジェクトは500人の雇用を創出し、毎年3,500万US\$の歳入を国家にもたらすと期待されている。

2005年4月、PMDC、MCC、MRDL、中国国家開発銀行（CDB:China Development Bank）の4者は合弁事業会社（MDMD:MCC Duddar Minerals Development Compay Pvt. Limited）を設立し中国開発銀行が5,400万US\$の資金融資を行うことで合意した。残る資金はMCCが自己調達する。なお安泰科によれば、MCCがMDMDの権益51%を保有し、残る権益を湖南株洲製錬集団有色金属会社が34%、湖南黄沙坪鉛亜鉛鋳公司が15%保有する。湖南株洲製錬集団有色金属公司是中国最大の亜鉛生産企業で、2003年は28.5万tを生産している。MCCは、先に手掛けるSaindak 鋳山の拡張事業の一環としてDuddar 鉛亜鉛プロジェクトを進めている。

6. その他トピックス

2006年3月27日、Tethyan Copper社の役員会は満場一致で、チリAntofagasta社より提案を受けた1.40A\$/株、総額1億8,560万A\$の買収を受け入れると表明しており、Antofagasta社によるReko Dek銅金プロジェクトの投資判断が注目される場所である。

(2006.5.31/ジャカルタ事務所 池田 肇)